

2019-2020

国際ロータリー 第2800地区

Nagai Rotary Club



長井ロータリークラブ



Weekly report

国際ロータリー会長 マーク・ダニエル・マローニ

長井ロータリークラブ会長	大山友規憲	第2800地区ガバナー	大久保章宏
幹事	土屋茂樹	第6ブロックガバナー補佐	味田琢哉
例会日	毎週火曜日 12:15~13:15	例会場	タスパークホテル TEL0238-88-1833
事務局	長井商工会議所内 TEL0238-83-2047	URL	http://www.nagai-rc.jp
E-mail	info@nagai-rc.jp	会報委員	塚田弘一 寒河江良一 横澤寿彦

【2月・特別月間】平和と紛争予防/紛争解決月間

例会報告 No.23 (通算 第2814回) 2020年(令和2年)2月4日(火)号

■ロータリーソング : 国歌

■ゲスト紹介 :

県環境エネルギー部
循環型社会推進課長
佐藤伸氏



■会長の時間(挨拶・報告): 大山友規憲会長



本日は、山形県環境エネルギー部循環型社会推進課長佐藤伸様をお招きしてのゲスト例会です。「山形県における廃棄物の現状について」と題しましてお話頂きます。宜しくお願いします。

今日は、米山梅吉氏の生まれた日になります。慶應4年の旧暦2月4日に誕生され、昭和21年4月28日に亡くなられた訳ですが、様々な場面でご功績は語られておりますので、今回は米山奨学会の資料より抜粋した部分を紹介させていただきます。

米山奨学事業について、「今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」。事業創設の背景には、当時のロータリアンのこのような思いがありました。それから60年余の歳月が流れましたが、「民間外交として世界に平和の種子を蒔く」という米山奨学事業の使命は一貫して変わっていません。むしろ、今日の世界情勢と日本の置かれている状況を考えると、その使命はますます重要性を増しているのではないのでしょうか。留学生への支援は、未来に向かって平和の懸け橋をかける尊い奉仕なのです。

”何事も人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。”他人への思いやりと助け合い”の精神を身もって行いつつ、そのことについて多くを語らなかつた陰徳の人でした。

■幹事報告： 小笠原信吾副幹事



1. 2020-21 年度ガバナーE 斎藤栄助様より国際協議会研修レターが届いています。
2. 2月のロータリーレートは 110 円/ドルです。
3. 置賜地域男女共同参画講座開催のご案内：
みんなで合う育ちあうまち 2月 15日 13:30-15:30 タス2F
4. 寒河江 RC より 60 周年記念誌送付のご案内
5. 小さな親切・新春号が届いています。

(第 13 回理事会報告)

1. 3月プログラムについて： 承認
2. その他
 - 1) 米山奨学生のサブ世話クラブの検討一次年度で検討
 - 2) 地区補助金の申請の検討一次年度で検討
 - 3) 会報作成について・ビデオ撮影の活動記録使用の実態がない。同撮影を中止しカメラ撮影とする。一了承
 - 4) 2/18(火)ミニクラブフォーラムについて一 了承
 - 5) 英語弁論大会費について 他に後援の話があったが当面現行とおりとす
 - 6) 60周年実行委員会発足について 一 了承
 - 7) 親睦旅行について 一 別紙申し込み

■お祝い・表彰： おめでとうございます。

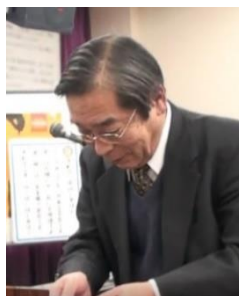
○誕生日祝い(2月)

- ・会員 一 横澤寿彦会員 (15日)
梅津喜博会員 (16日)
- ・奥様 一 斎藤裕之会員 (20日)
高橋勇喜知会員 (26日)



○在籍年数表彰(1月)

大道寺信会員 6年



斎藤裕之会員 16年



大山友規憲会員 10年



■委員会報告：

1. プログラム委員会： 浅野敏明委員長
○2月プログラムについて (詳細はHP 参照)
2. 雑誌広報・IT 委員会： 斎藤圭央委員長
○「ロータリーの友」2月号 紹介
ロータリーアットワーカー森林と水を守る(山形北 RC)
米山学友との思いで一 大久保章宏 G (山形南 RC)



■ニコニコ BOX： 尾形和夫 SAA

- 大山友規憲会長 ゲスト所氏を歓迎して
- 小笠原信吾会員 ゲストを歓迎して。また、
本日も食品ロスなく昼食をいただきました。



■出席報告： 遠藤伴明委員長

本日の会員数 23 名、全出席者数 14 名で出席率は 60.87%です。

(ゲスト卓話)

山形県における 廃棄物の現状等について

ごみゼロやまがた推進プランの進捗状況と
廃棄物を取り巻く最近の話題について

県環境工ネルギー部
循環型社会推進課長 佐藤 伸氏



(資料抜粋掲載)

1 第2次山形県循環型社会形成推進計画 (ごみゼロやまがた推進プラン) について



第2次山形県循環型社会形成推進計画 ～ごみゼロやまがた推進プラン～

基本理念

県民協働で、低炭素社会に貢献する
ごみゼロやまがたの実現

基本目標

全国一ごみの少ない県を目指して リサイクル等の循環型産業を振興

施策の柱

- 資源循環型社会システムの形成 (廃棄物の発生抑制)
- 資源の循環を担う産業の振興 (循環型産業の支援)
- 廃棄物の適正な処理による環境負荷の低減 (廃棄物の適正処理の推進)

基本的数値目標の設定



2 ごみゼロやまがた推進プランに係る 基本的数値目標の推移について



基本的数値目標の推移

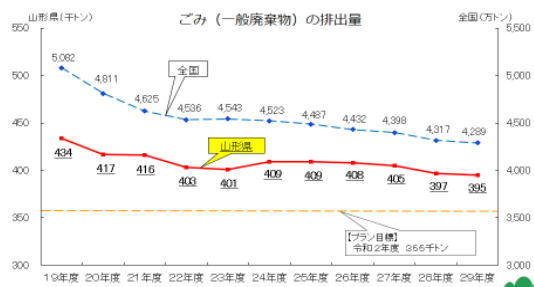
● 基本的数値目標の設定 (中間見直し後)

項目	目標値 (R 2)
ごみ (一般廃棄物) の排出量	355 千トン
うち事業系ごみ (一般廃棄物) の排出量	89 千トン
家庭系ごみの排出量 (1人1日当たり)	430 g
ごみ (一般廃棄物) リサイクル率	27 %
ごみ (一般廃棄物) 最終処分量	38 千トン
産業廃棄物の排出量	3,558 千トン
産業廃棄物リサイクル率	60 %
産業廃棄物最終処分量	90 千トン

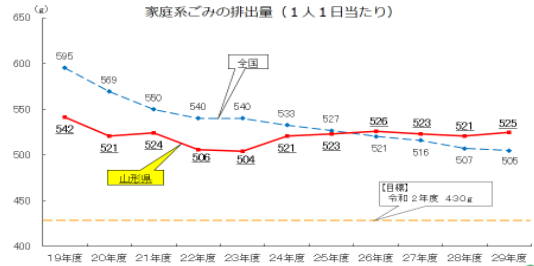
※計画見直し前の設定項目である「1人1日当たりのごみ (一般廃棄物) の排出量」も、継続して数値を把握している (目標値: 820 g)。



基本的数値目標の推移



基本的数値目標の推移



3 食品ロスの削減について



食品ロスが引き起こす問題

(出典: 農林水産省食料産業局HPより)

環境問題

水分の多い食品は、廃棄の際に
運搬や焼却で余分なCO₂を排出

食料生産により
多量のエネルギーを消費

市町村におけるごみ処理経費
1兆 9,745 億円 (平成29年度)
(平成24年度比 +1,860億円(+10%))
1人当たりの経費 = 15,500円/年
(平成24年度比 +1,700円(+12%))

食料問題

世界の9人に1人が栄養不足
(約8億人)

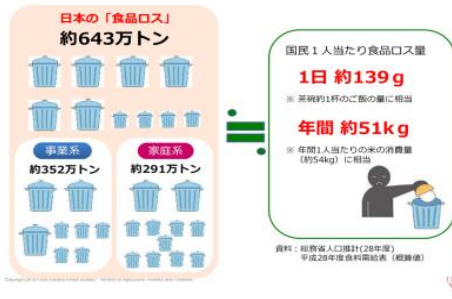
世界人口
国連推計
77億人 (2019)
97億人 (2050)

摂取カロリーから見た食料自給率
37% (平成30年度)
(先進国では最低水準)



日本の食品ロスの状況

(出典:農林水産省食料産業局HPより)



食品ロスの削減に向けた本県の主な取り組み

① こみゼロやまがた県民運動の実施

・市町村、消費者団体、商工業団体等の代表委員で構成する「こみゼロやまがた推進県民会議」において、食品ロスの削減を家庭や職場で取り組む展開方針の在り方に位置付け、県民運動を推進

② 外食時の「おいしい食べきり」キャンペーンの実施(12月~1月)

・志新年会の多い時期に宴会5団案や30・10(さんまる・いちまる)運動によるおいしい料理の食べきりを推進

③ 「もったいない山形協力店」の登録事業

・食品ロスの削減やリサイクルの推進に取り組む飲食店等を、「もったいない山形協力店」として登録し、県のHP等で消費者に広く紹介することで、その取組みを支援
※登録事業所数 309事業所(令和元年12月末現在) 【内訳:飲食店 99施設、宿泊施設 30施設、小売店・スーパー 180施設】

④ 環境にやさしい料理レシピコンテストの実施

・家庭での食品ロスの削減を推進するため、素材をふことを使った料理や余った料理を別の料理に作り変えたリメイク料理のアイデアを広く募集し、人気レシピ集にまとめて県民に周知

⑤ 食品ロス削減シンポジウムの開催(11月26日)

・食品ロスの削減に関する専門家の講演、先進事例の発表、及びパネルディスカッションを行うとともに、こみゼロやまがた推進県民会議による食品ロス削減宣言を行い、食品ロスの削減に向けた機運を醸成

4 プラスチック廃棄物の動向について

くらしの中にあるプラスチックとプラスチックごみ ~ マイクロプラスチックによる海洋汚染 ~



⑤ レジ袋有料、来年7月から=中小含め小売店へ-政府

19/11/01 19:56 NH33

スーパーやコンビニなどで配られるプラスチック製レジ袋の有料化を検討する経済産業、環境両省の合同協議会は1日、経産省内で会合を開き、来年7月1日から全ての小売店を有料化の義務付け対象とする新制度案を了承した。店舗の環境にかなわず、全国一律で導入し、消費者の負担や事業者間の不公平が生じないようにする。

新制度案を基に、政府は12月末、容積包装リサイクル法の省令を改正する方針。来年7月24日から始まる東京五輪・パラリンピック期間中には、レジ袋有料化を海外にアピールしたい考えで、今後、マイバッグ普及キャンペーンなどを進めて周知に努める。

会合では、レジ袋有料化について「ライフスタイルの変革が目的で、象徴的なものだ」と評価する声が多く聞かれた。一部の自治体では既に先駆けた独自の有料化制度を導入しているが、経産省幹部は「自治体による自主的な取り組みは自然推進されるべきだ」と、尊重する考えを示した。

政府は当初、東京五輪までに制度を定めた。来年4月からの導入を軸に検討してきたが、袋やプラスチックの仕様変更など店舗側の十分な準備期間を考慮し、開始時期を3カ月延期することにした。

レジ袋の有料化は、生活に身近なレジ袋の使用抑制を通じ、環境に優しい意識を高めてもらい、海洋汚染などを引き起こすプラスチックごみの削減につなげるのが目的。レジ袋を有料で配布する場合は店舗は各事業者に決める。

また、産出地に由来し、生鮮食品を入れる薄手のロール袋は義務化の対象から除外。微生物の働きにより海中で分解する生分解性や、植物由来原料など環境に配慮した素材も対象外とする。(7)

スーパーやコンビニなどのレジ袋有料化を推進する経産省、環境両省の合同協議会の会合 = 1日午後、経産省



- (概略メモ)
- 山形県 1人当たりのゴミ H22 で5位がH29 で18位と低下
 - 食品ロス
 - 一人一日約 139g 捨てている。(茶碗1杯)
 - 一人年間約 51kg で一年米消費量程度ロス。
 - プラスチック廃棄物
 - 海に流れ出したプラスチックは紫外線や流れて粉々(マイクロプラスチック)となり魚類が食べる。
 - 本年7月より、全小売業レジ袋有料化。

